

プライマリ・ケア医のための
胸部 X 線・CT 画像のポイント 肺がんを見落とさないための読影の実際

日時：平成23年10月23日（日）10：00～15：00

講師：山田 耕三 先生 神奈川県立がんセンター 呼吸器内科部長 場所：すみだ産業会館

5 月開催予定だったセミナーでしたが東日本大震災の影響で延期となり 10 月 23 日、東京都墨田区のすみだ産業会館において神奈川県立がんセンターの山田耕三先生と剣持喜之先生を講師に迎え、「プライマリ・ケア医のための胸部 X 線・CT 画像のポイント 肺がんを見落とさないための読影の実際」をテーマに開催しました。

前半はパワーポイントを使用して、見落としやすい肺がんを減らすポイント、以上と見間違いやすい所見例、X線とCT画像を並べ分かりやすくがんの異常所見の比較の解説等から肺がんの成り立ちから成長する過程などを説明されました。

後半は実践編として、シャーカステンに健康な肺の写真と異常症例の写った写真とを並べ、どこに異変があるかを受講者に考えていただき、その後その症例をOHPで拡大しながらX線での見え方とCTでの見え方の違いなどを10例ほど行いました。

正常な胸の写真を頭の中に入れておくか、診察室に正常な写真と1円玉を用意する！

冒頭、山田先生は「胸部単純写真の役割」と題し、2020年時点でのがん患者数（推計）における肺がん患者が男性で1位、女性で4位となり、特に男性の70～80歳代がピークで禁煙活動の効果は20年くらいは効果が顕著に表れず、まだ拡大していく見込みであることをのべられました。

また、アナログX線とデジタルX線の違いと特徴を説明され、CT時代における胸部単純写真の役割として、1. 病変を見つける、2. 病変を疑うことであり、初診で何か変だな、この写真は怪しい…を落とさない医者の勤を養い、常に怪しんで写真と向き合いおかしいと思ったらすぐにCTを撮ることが早期発見につながると強調されました。

肺がんは2cm以下ならば手術でほぼ100%治すことができるということです。そこで身近にある2cmとして1円玉を用意し2cmまでのがんを見つけることが重要となります。

肺がんはMRIやPETよりCT！



OHPの画像をバックに開設される山田先生

X線で怪しい白い影や白い筋がありおかしいと感じたらとにかくCT。銭形平次やコロンボになったつもりで怪しいところを見つける。おかしいと思った場所が正常でも、別の場所に肺がんが見つかることもあるが医療はそれで良い。健康な写真と比較する、近づきすぎず一歩下がってみる、通常見えなければならぬ筋などが見えないときは怪しい等見落としを無くすためのコツが次々と伝授されていきます。

また佐藤雅史先生が提唱された「小学三年」法が読影のコツであると紹介されました。

次回セミナーは11月20日、筑波大学教授の宮本信也先生により「発達障害の基礎知識」を大田区産業プラザで開催いたします。